

野菜畑作生産情報 第4号（要約版）

平成29年7月20日
青森県「攻めの農林水産業」推進本部

◎大豆のほ場の排水対策を徹底しましょう！
◎ながいもの追肥は、新しいもの長さを確認して適期に行いましょう！

○大豆

- 1 生育は、おおむね良好である。
- 2 大雨などで滞水しないよう、明きょを手直しして排水溝へ接続するなど、排水対策を徹底する。
- 3 開花期（例年7月末～8月始め頃）にはほ場が乾燥している場合は、着莢促進のため、畝間かん水を行う。ただし、排水の悪いほ場では実施しない。
- 4 津軽地域では、開花期に追肥する。

○ながいもの

- 1 生育は、萌芽揃期が平年並から早く、おおむね順調である。
- 2 早植栽培（頂芽付1年子）の第1回目の追肥時期は、新しいも長5cmを目安とし、第2回目以降の追肥は、12～14日間隔で行う。
- 3 普通栽培（頂芽切除）の第1回目の追肥時期は、新しいも長10～15cmを目安とし、第2回目、第3回目の追肥は10日間隔で行う。
- 4 台風などの強風や大雨に備え、ネットや支柱を補強し、明きょを手直しして排水溝へ接続するなど、対策を徹底する。

○ばれいしょ

- 1 生育は、いも重が平年をやや上回っており、順調である。
- 2 収穫まで期間がある場合は、曇雨天が続くと、疫病が急激に増加するため、7～10日おきに降雨の合間をぬって予防防除を行う。
- 3 収穫は、茎葉が黄変し、枯れ上がってから10日後くらいに行う。

○ごぼう

- 1 生育は、は種作業が遅れたため、草丈、葉数が平年を下回っている。
- 2 黒斑細菌病、アブラムシ類の発生に注意し、早期発見・早期防除に努める。

○夏だいこん

- 1 生育は、出芽が良好で、順調である。
- 2 軟腐病、キスジノミハムシの防除を徹底し、コナガ、アオムシなどの害虫の早期発見・早期防除に努める。

○夏秋トマト（雨よけ栽培）

- 1 生育は、6月の日照不足により緩慢となり、平年並からやや遅れている。
- 2 収穫始めはおおむね平年並で、現在第2果房の収穫中である。
- 3 着果負担による草勢の低下や中位葉の葉先枯れが見られ、灰色かび病の発生が多い。
- 4 灰色かび病、葉かび病を主体に計画的に防除する。

- 5 追肥及びかん水は、水分要求量が高まる午前8～9時頃に行う。
- 6 高温が続く場合は、軟果に注意しながら、通路にもかん水する。
- 7 ハウス内の高温に注意し、サイドの開放と併せて、肩換気やツマ面換気も行う。

○メロン

- 1 トンネル栽培（4月下旬～5月上旬定植）の生育は、おおむね順調である。
- 2 収穫は、着果後の日数や外観のほか、試し切りを行い、糖度・肉質の状況を確認して総合的に判断し、果温が低い朝夕に行う。

○ねぎ

- 1 3月下旬定植では、収穫期に達しており、4月下旬定植では、6月の低温により、草丈、茎径は平年を下回っている。
- 2 べと病、黒斑病等の早期発見に努め、各病虫害に効果的な薬剤を選択し防除する。
- 3 最終培土は、太さ20～22mm、収穫20～30日前を目安に行う。

◎ほ場を見回るなど農作物の盗難防止に努めましょう。

◎決め手は土づくり！ 日本一健康な土づくり運動展開中！

◎農薬は適正に使用しましょう。

- 1 農薬の飛散を防止する！
- 2 農薬は使い切り、河川等へ絶対捨てない！
- 3 農薬を使用する場合には、必ず最新の農薬登録内容を確認！

農薬情報(http://www.maff.go.jp/j/nouyaku/n_info/)

農薬登録情報提供システム

【詳細検索】(<http://www.acis.famic.go.jp/search/vtllp301.jsp>)

【作物名検索】(<http://www.acis.famic.go.jp/search/vtllp101.jsp>)

◎農作業中は熱中症に気をつけましょう。

- 1 日中の暑い時間帯は作業を避けるとともに休憩をこまめにとる！
- 2 通気性の良い作業着や帽子を着用し、汗で失われる水分や塩分を十分に補給する！



報道機関用提出資料	
担当課	農産園芸課 野菜・畑作物振興グループ
担当者	井澤 主査
電話番号	直通 017-734-9481 内線 5078
報道監	農林水産部 田中 農商工連携推進監（次長） 内線 4966